

## 農林水産省食料産業局長賞

『大好きな給食に「いただきます」』

香川県高松市立仏生山小学校 六年三組 女子 坂賀 憩

「やったあ！りっちゃんサラダだ。」

私が学校から配布されるお便りの中で一番うれしいのは、毎月の給食献立表です。大好きなメニューの日は、学校に行くのが楽しみです。りっちゃんサラダは、一年生の国語で習う「サラダでげんき」の物語に出てくるサラダのことです。一年生の時はこのサラダを食べると、猫のように木登りが上手になり、馬のようにかけっこが一等賞になると信じて、ウキウキしながら食べていました。今では、一年生が給食や野菜を好きになるようにと栄養士の先生が、工夫してメニューを考えてくださっているんだと分かりません。

私は、日中韓交流事業で中国に行き、一週間、中国の給食を食べる機会がありました。中国の給食もおいしかったけれど、やっぱり日本のおみそ汁は世界一おいしいと思います。和食は、だしがよく効いて、薄味なのに口の中にいろいろなおいしさが広がるような気がしました。日本に帰ってきて、ますます、日本の給食が好きになりました。また、その交流事業で友達になった北海道のまゆちゃんと、給食に出る郷土料理について話した時、

「まんばのけんちゃんって何？」

と聞かれました。まんばは香川の方言で高菜のこと、けんちゃんは人の名前ではなくて、「けんちゃん」のなまった言葉だと調べて伝えました。他にも、香川では、いりこ飯やハマチの照り焼き、和三盆が出ること、まゆちゃんの住む室蘭では、カレーラーメンや室蘭産のホタテカレー、うずら卵のスープ等が出る話が話題に出ました。二人とも、「おいしそう！」とお互いの給食を思い浮かべて、盛り上がりました。給食のおかげで、私は、自分のふるさとのおよさを紹介することもできます。そして、日本中の子どもたちが、地産地消の体にいい旬の食材を食べ、健康でいられます。社会で調べたフードマイレージから考えても、輸送距離が短く、地元の食材を使った給食は、環境にも優しいと私は思います。

こんな風に当たり前に食べている給食ですが、ある絵本を読んで、世界には、給食を食べられない国があり、給食どころか食べるものがなく、六秒に一人、飢えて死ぬ子どもがいるということを知りました。私は、同じ時代に生きているのに、とても悲しくなりました。そこで、その絵本を買って、テーブルフオートウーの活動に参加し、本代から二十円を寄付しました。二十円は、発展途上国の給食一食分の費用だそうです。貧しい国の子どもが一人でも多く、私と同じようにおいしい給食を食べて、笑顔になってほしいです。

私は、六年間の給食に感謝したいです。友達や先生と食べる給食は楽しいです。給食で元気に成長しています。だから、様々な命を「いただきます。」と、給食に関係する方々への「ごちそうさま。」を忘れずに言いたいです。